

4 多様な働き方

「働き方の未来2035:一人ひとりが輝くために」懇談会が発足

厚生労働省は1月28日、「働き方の未来2035:一人ひとりが輝くために」懇談会(座長:金丸恭文・フューチャーアーキテクト株式会社代表取締役会長)の初会合を開催した。

グローバル化や少子高齢化の急速な進行とともに、IoT(モノのインターネット:Internet of Things)やAI(人口知能:Artificial Intelligence)等の技術革新の進展により、産業構造・就業構造や経済社会システムの大きな変化が予想されている。これらを踏まえ、今から20年後の2035年頃の働き方について、短期、中期、長期の視点から働き方のビジョンを示すことが狙い。懇談会では、2016年夏頃に報告書の取りまとめを予定している。

IoT、AIの技術革新を踏まえて2035年を見据えた働き方を検討

懇談会の開催要綱では、グローバル化や少子高齢化の急速な進行とともに、IoTやAI等の技術革新の進展により、産業構造・就業構造や経済社会システムの大きな変化が予想される中で、個人の価値観の多様化も進んでいることを指摘した。

こうした中で、女性や男性、高齢者や若年、一度失敗を経験をした者や障害・難病を抱えている者など、全ての者が能力を最大限発揮し、誰もが活躍できる社会を実現し、個人の豊かさや幸せを向上させる必要があるなどとしている。また、生産性・企業価値の向上を通じた持続的で豊かな経済成長を可能とすることが求められていることから、2035年を見据え、一人ひとりの事情に応じた多様な働き方が可能と

なるような社会の変革を目指し、これまでの延長線上にない検討が必要である、とした。

個々の可能性を最大限に生かした多様な働き方の実現を

懇談会初会合では、塩崎恭久・厚生労働大臣が冒頭挨拶で、「従来よりもさらに長い視野、具体的には20年ぐらい先を見て、2035年頃を見据え、短期的、中期的、長期的にビジョンを持って、今日のことを決めていく、との考えから懇談会を発足させた」などと発言し、その意義を強調した。

また、IoTやAIの技術革新により、産業構造・就業構造や働き方の大転換がありうること、ヒト・モノ・カネの国際的な激しい動きに加え、知識経済の進展についても言及。「人材の重要性が高まっており、その意味では各国とも外国人材をどう確保するのか、人材獲得競争が世界規模で行われている。我が国が人材を維持し、さらに獲得していくためには、働き方がグローバルな水準で通用するものがなければ、日本としてうまくいかない。そのような働き方を実現していかなければならない」などと述べた。

そのうえで、「社会経済システムの大きな変化が予想される中で、一人ひとりの希望や選択に基づきながら、しかも個々の持つ個性や特性、可能性を最大限に生かした真に多様な働き方の実現を目

指す必要がある」などとする懇談会の問題意識を語った。

第2回会合で今後のテーマ案を提示——技術革新、労働法制も検討対象

2月25日に第2回懇談会が開催され、当面検討されるテーマ(案)として、以下の項目が提示された。

①技術革新の観点から考える

- ・AIの技術革新の進展による社会への影響
- ・テレワークの現状と個人の状況に合わせた未来の働き方

②労働法制の現状と未来

③現状(課題等)から未来を考える

- ・子育て・介護と仕事の両立の現状と未来
- ・都市と地方の雇用の現状と未来

④グローバル視点から考える

- ・付加価値の変遷
- ・組織運営と人の役割(産業・業種・職種別視点等)
- ・未来を担う人材のための教育

懇談会では、今後の議論を踏まえ、2016年の夏頃に提言をとりまとめる予定である。

(調査・解析部)



試行錯誤で運転を学習するミニカー(厚生労働省「働き方の未来2035:一人ひとりが輝くために」懇談会資料より)